

地区大会に望ましいもの



地区大会は新会員がロータリーを肌で感じる絶好の機会である。参加者2,000人前後が対話感覚の限度であろう、それ以上だと行事に溶けこめず傍観者になる

元RI理事 大阪北 原田 秀雄

日本の地区ガバナー任期中最大のできごとは、何と云っても彼が主催する地区大会である。事実、地区ガバナーの中には地区大会が終ると暫くは、その感激に酔って共に働いた大会役員達と過ぎた大会の苦心談ばかりに花を咲かせ、地区日常の仕事など余り手につかない有様というのを見受けるが無理もない。

ロータリーを肌で感じる絶好の機会

元来地区大会の目的といえ、その年度のRI会長の方針に基づく激励的講演、RIならびに地区のロータリー活動の現況、理事会の提案等各種ロータリー問題の討議、さらには久しぶりに他クラブの古い友人達に会える楽しさ、殊に新会員にとっては出席することによりロータリーを肌で感じる絶好の機会ともなりうるよう、友情を深める種々の催し物、懇親会等によりロータリー活動の促進をはかることがその主なるものでなければならぬ。

これに対し「ロータリー日本50年史」の資料によれば、わが国復帰後の地区大会数は昭和25—53年間に既に約250の多きに達し、一応の形式が固定した反面、いわゆるマンネリズムの声も聞かれるようになった。これについてはまずRI会長代理として出席した外人ロータリアンの声を聞くと、お世辞かも知れないが、みな日本の地区大会は立派であり奇麗事であり運営が上手であると批評している。しかしそこには色々な問題があり批判も行なわれておることも見



逃がすわけにゆかない。

まずその規模（登録人員）の点である。これは施設の許す限り盛大であることを望むのは人情であろう。しかし過去の日本の例で最大は昭和40年度代々木で行なわれた東日本6地区合同のもので8,000名余、同年西日本でも5地区合同の京都でこれに近い規模となったことがあるが、いずれも理想からいえば大きすぎたのではないだろうか。そこでは友人達と約束してもまず会えなかった。多くの参加者はその行事に溶け込めず傍観者になる、ことに新会員の場合はとりつく島もなく失望を感じただろう。参加者2,000人前後が対話感覚の限度である。合同大会も、分割された2地区間で稀に行なう位なら、友愛を考えた上でも意味があるけれども。

心温まる地方の大会

次に会場は大都市か地方都市かとなる。以前は限られた施設の関係で大都市に多く見られたが、追々地方都市にも立派な会場ができたので今ではむしろ東京、大阪等よりは地方の方が心の温まる大会ができ、豪華さでは及ばないが印象に残るものが増えてきた。今年の沖繩の大会等もその一例である。また会場と切り離せないのがホストクラブの問題であるが、この場合クラブの大小は論じない、要は熱意の有無であり、大きすぎても無駄が多く、小さければコホストクラブの協力を求めればよい。

最近経費が話題になっているように聞く

が、確かに日本23地区で年間約8～9億円を費しているのだから考えなければならぬ。会員数が増加しているのだから経費増は当然としても、時節柄を考えて単価引下げの努力を今少し払ってしかるべきものと思う。手許の資料が不足しているのだから得ていないかも知れないが、昨年度の例をみると全員懇親会を含めて参加者1名当り15,000円また懇親会なしで20,000円等の数字が報告されている。諸物価に比し決して高額とはいえないが念頭におくべきであろう。

ガバナーが主催者

次に大会の運営に関して気のついたことであるが、司会をSAAまたは大会幹事に任せているのが多い。よくある例であるが「只今から国際ロータリークラブ第〇地区年次大会を挙ります」等と張り切ってやられると、すっかり興がさめてしまう。少くも地区ガバナー自身が司会をされればこのような間違いはない。地区ガバナーの司会に終始した地区大会に2～3参加し、最近では今年の沖繩での清瀬ガバナー(当時の大変心温まる情景に接したことがある。しかし、地区ガバナーの人柄によってはワンマンショーになりかねないし、自己顕示欲の強い人もあるから難しいかも知れない。また地区の数も増しパストガバナーも人数が多くなってきたので、舞台上に並べる行き方は繁雑である。紹介さえ正しければ土間最前列に並んでも少しも礼を失しない。胸の飾り花も高価であるから会長代理のみとし、皆同じバッジで結構。また地区ガバナーは飽くまで主催者であるという気持を徹底して持つべきであり、時々表彰等の場面で主客顛倒が見られるのは見苦しい。

次にプログラムについて、パネルディスカッションがよく用いられるが、無難である。人選を誤らなければまず間違いはない。職業別討論会も面白い。これらは新会員に対し参加の意欲をかきたてるものである。

夫人プログラムは本会議との関連が難しいけれども、279地区大会でかつて夫人の出席率のよいクラブの表彰をやり、華やかな雰囲気を作り立てたことがあった。RIではこの夫人プログラムを盛んに推奨するけれども会場の都合ではなかなか難しい。RIがでたついでというとおかしいが、RI理事会の提案を議題としたグループ討論も盛りあがりを作るプログラムの有力なものといえよう。

心のこもった“友愛の家”を

友愛の家は多くの大会に必ず設けられているけれども申訳ばかりのものもある。総ては会場の都合によるものであるが、例にあげるのは適当でないかも知れないが、先般の東京国際大会の帝国ホテル内に設けられたものは実に行き届いていて、外人も非常に褒めていた。規模はやむを得ないがあの位の心遣いはありたいものである。地区大会の運営が流れるように進行するためにはぜひSAAの強力なものを持つ必要がある。しかも副SAAを数名おき登壇着席等ぬかりなく指導することが、案外会場の空気をひきしめるのに役立つものである。また登録受付等にも新会員を並ばせないで、なるべくベテラン会員の力を借り、ことに来賓受け等に無理かも知れないが、他地区のパストガバナーの名前位心得た会員に依頼したいものである。

いろいろと注文をつけたが、最後に会長代理の接遇の問題にふれると、勿論地区ガバナー自身主として行なうべきであるが行事多忙のため、代りに相手のできる古参会員を指名すべきで、またなるべくガバナーノミニーを会長代理に親しく話のできる機会をもたせるようにしたい。また懇親会等においてできるだけ多くの参加者とも会話のできるように心を配るべきである。昭和27年来約100カ所近くの大会をみてきたので、勝手な熟をふいたが、妄言多謝。